

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791100029		
法人名	一般社団法人介護サービスやんばる		
事業所名	グループホーム国頭		
所在地	国頭村字辺野喜26-1		
自己評価作成日	令和7年3月4日	評価結果市町村受理日	令和7年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4791100029-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4791100029-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	令和7年 3月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム国頭は、やんばるの自然に囲まれ旧小学校辺野喜分校を改装して出来たグループホームで、穏やかな時を過ごせる環境にあります。入居者、地域、職員の三本柱で地域に溶け込み、支え支えられる関係を作り、開かれたホームを目指しています。事業所に看護師を配置し、診療所の医師の協力のもと、日頃の健康管理を含め、緊急な事態にも対応できる体制をとっています。またグループホームバンドがあり、祭りや主催しているイベントに出演しています。音楽を通して皆さんにグループホームや介護の理解を深めてもらえるようつとめています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は職員が、理念にある利用者1人1人に対して尊厳と意思を尊重するケアの実現へ向けて努力できるよう支援している。また、法人は地域ふれあい事業と銘打ち、チャリティ囲碁大会を開催し村の社会福祉協議会と囲碁同好会と連携をとり繋がりを強め、同事業で道の駅ステージでライブイベントを開催するなど積極的に地域振興に貢献している。事業所は隣近所との交流があり、野菜の差し入れを貰うこともある。台風時には区の依頼で地域住民の避難場所として条件付きで受入れ体制を整えている。管理者は職員が働きやすいよう勤務表作成時のルールを公平に定めているため、職員同士の協力姿勢が整い、勤務変更や体調不良時の代役など相互に助け合っている。また管理者は職員と業務連絡をSNSツールを活用して行い情報共有に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で自分らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	グループホームの理念を職員がいつでも目にするができるよう事業所内三か所に掲示している。職員は理念にある利用者の尊厳と意思の尊重を日頃から実践できるよう意識的に仕事をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。園外活動や地域の祭りへも積極的に参加したり、ライブイベントを企画して開催したりしている。	法人は地域ふれあい事業と銘打ち、チャリティ囲碁大会を開催し、村の社会福祉協議会と囲碁同好会と連携をとり繋がりを強め、同事業で道の駅ステージでライブイベントを開催するなど積極的に地域振興に貢献している。事業所は隣近所との交流があり、台風時には区の依頼で地域住民の避難場所として条件付きで受入れ体制を整えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や貢献に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか辺野喜区と話し合い、取り組んでいる。 (1)地域の環境整備 (2)行事への相互参加		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また地域住民の中での介護サービスのニーズについても話し合われている。	年6回の運営推進会議が開催され、構成員の地域代表が区長、老人会会長、民生委員と三者が選定されており活発な質疑、意見交換が行われている。認知症について博識な知見をもつ構成員には的確なアドバイスをもらい事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所では、市町村担当者に運営推進会議に参加していただき、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。また役場の担当者が利用者のKPになっている為、連絡を取る機会が多い。	村の担当職員が利用者の世話役でもあるため、村への問い合わせや相談が、よりスムーズに行えている。防災に対する村の情報のアドバイスを受けたり、グループホームの空き状況をなど情報提供もしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室のカギはなく、利用者は自由に入出入りしている。本人の自由を奪うような身体拘束は行っていない。夜間のみ不審者侵入防止の観点からすべてのカギを施錠している。朝にはすべて開錠している。	身体拘束適正化に関する委員会の開催があり、指針とマニュアルも整備されている。本人の意思を尊重して敷地の外にある自動販売機で飲み物を購入したい利用者の行動を制限することなく見守り対応をしている。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修や定例会での勉強会を設けている。管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する委員会の開催が行われ、指針とマニュアルも整備されている。年二回の研修を行い管理者と職員が高齢者虐待について学び日々の実践の中で利用者の自分らしい生活の実現を支援している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用し支援できるよう努力している。現在、役場の担当者が当利用者のKPになっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得をして頂けるように努めている。			
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに、外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。契約時に県、市町村の苦情、意見窓口を説明している。	身よりのない利用者の意見として日常生活用品の購入希望がある際に注文を聞き取り、職員が買い物を行っている。また、受診時の付き添いが難しいという家族の要望には有料で受診時の付き添いを実施している。		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は、提案を聞く機会を(定例会)等を設け、反映させている。	月に一回定例会を開催し、通常の議題の他に職員が意見する時間を設けて自由な雰囲気の中で発言しやすいよう工夫している。職員からは利用者のケア内容について活発に意見交換があり、業務改善に繋がる例もある。管理者は職員と業務連絡を共有できるようSNSツールを活用している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金による労働意欲の改善に努めている。また希望休に対応したり、職員の家族等に緊急の用事がある場合は休めるように柔軟に対応している。	管理者は職員が働きやすいよう勤務表作成時のルールを平等に定め、休み希望は一回、出勤時間帯の希望は別にするなど柔軟に対応している。職員同士で協力姿勢があり、勤務変更や体調不良時の代役など相互に助け合っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員を段階に応じて育成する為の計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	必要性を感じているが、まだ取り組めていない。積極的に取り組んで交流を図りお互いのサービスの向上に繋がるようにしたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめ対応している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求められていること等をよく聴く機会を作り、受け止め対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と家族がその時に必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築くため、談話や傾聴、昔の出来事や生活の知恵をだしていただけるよう、環境を整えていく。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話やメールのやり取りをおこなえるようにしている。家族の個人差はあるが、近況の報告などができる体制に整えていく。また病院の送迎などをお願いし、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が安心して、納得した上でサービスを利用する為に、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居する前に長年地域で営んでいた商店の馴染の客がグループホームに尋ねてきたり、久々の対面を喜び涙を流す人もいるなど、事業所は、複数の方が面会に訪れやすいよう環境を整え、関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。行事への招待等も考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意思の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自宅に行きたいという希望の強い利用者に定期的なドライブがてら自宅に連れて行き、安心したところで戻るということを続けている。職員は、個々の利用者の希望に寄り添って意向の把握に努め、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれ本人の意見や意向を反映した介護計画を作成している。	計画作成担当者は計画は半年に一回見直しており、状態の変化または更新時期に計画作成をしている。日々の情報は職員と定例会や日勤の際に情報収集を行っている。体調の変化が続いたりする際には家族にも適宜連絡を入れて共有をしてもらい、本人の意向と家族と話し合う体制を整えるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。また、職員連絡帳があり、大事な特記事項はそこで共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。例えば、医療機関への付き添いや、医療者との情報交換等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、行政機関等と協力しながら支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	原則は家族対応で病院受診を行っているが、身寄りのない利用者、家族が対応困難な例があるため職員対応が5名、残り2名が家族が付き添いを行っている。現在調整中の利用者1人を含めて現在入居している7名が村内の診療所を受診し主治医が定期的に健康管理をしている。精神科通院が必要な利用者は、入居前から継続して訪問看護も利用している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の事を良く知る看護職員を配置して、日常の体調の変化などを報告し、適切な処置等を確認して利用者の健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医療と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	事業所の方針として重度化した場合、医療が必要になったり終末期の対応については、他施設などを案内する事を入居時の説明にて行っている。経口摂取しているが食思が低下している利用者に対して、栄養状態の変化など主治医と連携して家族にもその経過を報告相談しながら、受診も行い点滴治療など事業所でする範囲の対応を重ねていった事例がある。	重度化や終末期に対する事業所の方針を説明した上での利用者及び家族の意向の把握が望まれる。その上で事業所方針にそった書類を整備し同意を得ることを期待したい。
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生に備え、緊急連絡フローをもとに話し合い、対応方法を職員に周知している。	介護事故発生及び急変時の対応マニュアルが整備され、緊急時の連絡体制のフロー図も電話機近くに掲示され閲覧しやすい状態にしている。また急変者が発生することも想定して地元区長から提案のあったAEDの設置と設置場所について協議している。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	昨年3月末に避難訓練を一度実施、その直後にも事業所独自に近隣の避難先へのシュミレーションを実施している。その数日後実際に津波避難警報が発令されシュミレーションが活かされた形となった。感染症及び自然災害における業務継続計画の書類が整備され職員にも周知する機会をもって推進に努めている。	年二回それぞれ昼夜の避難訓練の開催が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを大切にし、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応に注意をはらい、記録等の個人情報の取り扱いを慎重に行っている。	言葉づかいが荒くならないよう配慮しながら、トイレで排せつ時にドアの開け閉めを確実に行う。また利用者の居室に職員が出入りする際、着替え中のこともあったため、ドアをノックしたり合図声かけをするなどプライバシーへの配慮を意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかりやすい説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。また3か月に1回の頻度で村内の美容師に頼み、理髪を行っている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう努めている。おやつなども定期的に利用者と職員でホットプレート等で作るようにしている。	食事は3食主菜副菜のおかずを外部へ発注し、主食と汁物は事業所のキッチンにて調理して提供している。原則盛り付けはワンプレートで食べやすいようにしているが、目が不自由な利用者には個別に食事を小鉢に取り分けて自身で食べやすいよう配慮をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。また職員が育てているネギなどを頂き使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、口腔状態や力に応じた支援をしている。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	7名の利用者全員が尿意便意があり、訴えにてトイレへ誘導している。そのため現在は時間ごとの排せつの記録はせず、回数を把握している。頻尿傾向の男性利用者への対応として本人や看護とも相談し泌尿器科受診、内服薬の調整を図ったところ改善が認められ利用者の皮膚トラブルの心配や排泄の悩みの軽減につながった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は業務上決めているが利用者の体調が悪い時などは、曜日や入る時間帯を変更したり柔軟に対応し、入浴を楽しめるように支援している。また足湯を取り入れたり、脱衣所を温めたりして近年多くなっているヒートショックにも気を付けている。	男性利用者は月水金、女性利用者は火木土と原則週3回の入浴を実施している。冬場の寒い時期は体調不良要因になる事を考慮して利用者の同意も得て一時的に週2回に変更していた。すべての利用者に足浴を実施し入浴を楽しめる支援を行っている。基本同性介助だが、勤務の都合など了解を得られている利用者に関しては異性介助を実施することもある。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状お変化の確認に努めている。利用者の服薬で分からないことがあれば、看護師や担当医師に確認するよう努めている。	看護師による初期段階での内服の整理から配薬時の手順までルールが統一されており服薬マニュアルが活かされている。服薬方法についての勉強会、誤薬があった際の検討会を実施して手順の見直しを図っており、昨年7月以降は誤薬は発生していない。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。園外活動など。	周辺地域の豊かな自然環境を活かしてドライブやイベント見学、屋外で食事をする機会をもっている。利用者の息子の営んでいる沖縄そば屋に協力してもらい貸し切り状態で対応してもらうなど安心して楽しめるよう配慮している。近場で地元の方の区長が長年手入れした桜並木を鑑賞し利用者からも好評だった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の家族や大切なひとに本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるようにしている。字が書けない利用者の場合にかぎり口述筆記をして手紙をかいている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	共同スペースでは利用者と一緒にレクを通して作成した折り紙等の作成物が飾られている。利用者同士がくつろいで過ごせるように畳間とソファの配置がされ、浴室と脱衣所の寒暖差をなくすために暖房器具を置くなどの工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室あるいは泊りの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には音の鳴る呼び出しボタンや鈴を置き利用者からの合図が可能となっている。ベッド、エアコン、タンス、温度計が設置され、入居前からの習慣のラジオ聴取が可能になるようラジオカセットを持ち込んだり、壁には家族写真が飾られ居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		